

◆共用試験について

薬学共用試験は、薬学教育課程（6年制）の学生が実務実習（5年次）を始める前に受ける試験です。全国の薬科大学・薬学部が共通で利用する評価試験です。

6年制課程の薬学教育では、実践能力を持つ薬剤師の養成を目的に、参加型の実習を行います。そのため、患者さんの安全や権利等を確保するためにいくつかの条件（患者の同意、実務実習を行う目的の正当性、および薬学生の行為の相当性）を満たす必要があります。そのひとつの条件として、薬学生が実務実習を行うに必要なかつ十分な基礎的知識や技能・態度を備えているかどうかを評価し、保証するのが、共用試験です。

共用試験は、「知識および問題解決能力を評価する客観的試験（CBT）」と、「技能・態度を評価する客観的臨床能力試験（OSCE）」に分けられます。

（平成30年度の予定）

CBT 体験受験(2018年9月10日(月))

CBT 本番(2019年1月18日(金))、 CBT 再試(2019年2月22日(金))

OSCE 本番(2018年12月22日(土))、 OSCE 再試(2019年3月5日(火))

知識および問題解決能力を評価する客観的試験（CBT）

CBTはコンピュータを用いた試験（Computer-based Testing）です。合計310問（予定）の多肢選択問題が学生ごとにランダムに出題されます。薬学生として最低限必要な専門知識（薬学教育モデル・コアカリキュラム参照，日本薬学会ホームページ<http://www.pharm.or.jp/kyoiku/index.html>）および実務実習に出る前に最低限必要な知識が対象です。

技能・態度を評価する客観的臨床能力試験（OSCE）

OSCE（Objective Structured Clinical Examination）は、学習者の基本的な臨床技能および態度を客観的に評価するために開発された評価方法であり、「実地試験」、「模擬患者が参画したシミュレーションテスト」に相当します。いくつかの小部屋が準備され、受験生はそれを順に回って課題表に示された項目を定められた時間内に実施します。「患者・来局者対応」、「薬剤の調製」、「調剤監査」、「無菌操作」、「情報の提供」などの課題があります。